

VCEW 活動報告

—機器の改善と開発—

第3節 ソーラー電源と受水・貯留分離型雨量計の試作

1. 経緯

大井、大町ともマンション住まいのため、これまで、屋外設置に伴う機器の機能、耐久性の検討を大町の作業場で行ってきたが、月一度の訪問では継続的な検証ができない難点があった。このため、観測精度に問題はあるものの、マンションのベランダから受水部を突出させて、雨水をビニールホースでベランダに設置した貯留ビンに導くことにした。同時に、ベランダフェンスに太陽光パネルを設置して、自動車用のバッテリーに蓄電して監視装置のモニターに電源を供給することにした。6月に設置して間もなく、長期通電によるセンサーボルトの電蝕が問題であることが分かり、取扱説明書の変更などに結果を反映させた。ソーラーシステムについては、現在までのところ問題なく機能している。



写真-1 ベランダから張出した受水部



写真-2 ベランダから張出した受水部



写真-3 導水チューブ



写真-4 貯水部とバッテリー



写真-5 ソーラーパネル



写真-6 ソーラーパネル配線状況

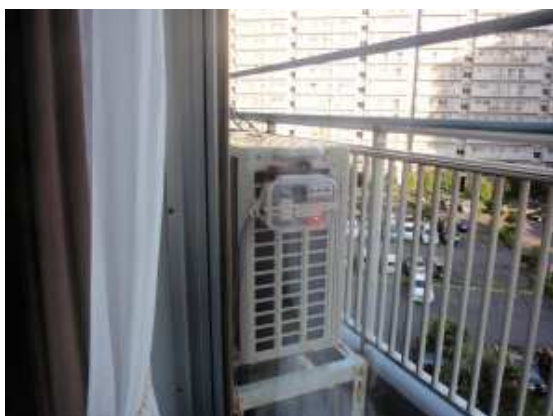


写真-7 空調機の室外機に固定したモニター



写真-7 空調機の室外機に固定したモニター